



鶏 鳴

けいめい

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「神の恵みによって今日のわたしがあ

るのです」
聖書(第1コリント書15章10節)

牧師 河合裕志

パウロが紀元55年頃にギリシャのコリント市にある教会の仲間宛てた第1の手紙は16章に及ぶ長いもの。その第15章には「復活」のことが集中的に述べられている。

その中で「最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです」と記し、「すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりのわたしたちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりの三日目に復活したこと、ケファに現れ、その後十二人に現れたこと」と。

これは最古の信仰告白とも言われる。世界の教会で大事にされている「使徒信条」という信仰告白は紀元2世紀の「ローマ信条」に原形を見ることが出来るけれど、それよりももっと古いことになる。1世紀の産物。そこには簡潔にキリストの死、葬り、復活、現れの4点が言われている。この告白、伝承はパウロの発明、独創でなくすでに原始教会、初代教会にあったもの、それをパウロが受けてあなたがた、コリントの人々に伝えた。これは箱根駅伝のよう。たすきのようにこの告白を受けては次の人に渡して行く。このようにして2千年のマラソンがなされて来た。

ところでパウロはここで復活したキリストの現れ(顕現)について以下詳しく述べ

て行く。これは別の伝承によると思われるけれど「次いで五百人以上もの兄弟たちに同時に現れました。(中略)次いで、ヤコブに現れ、その後すべての信徒に現れ」。五百人以上とは驚き。そしてこう記す。「最後に、月足らずで生まれたようなわたしにも現れました」。

パウロに現れたというのも驚き。だって彼はイエスの弟子なんかではない。イエスをキリスト(救世主)と信じる弟子達を迫害して回っていた。殺されたイエスが復活したと偽りを宣伝する彼らはゆるせない。そんなパウロがダマスコに住む弟子達をふんじばろうと向った道中で「サウル(パウロの前の名)、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか」というイエスの声を聞いた。これにはびっくり仰天。この時を境に彼は180度転回。以後キリストは私の罪のために死んで、復活したと信じ、伝道者となってしまう。

今パウロはそんな自分を振り返ってみてしみじみと書かざるを得なかった。「神の恵みによって今日のわたしがあ

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

聖書を学び祈る会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時

お話し会、(面談)：水曜日午後1時～7時